

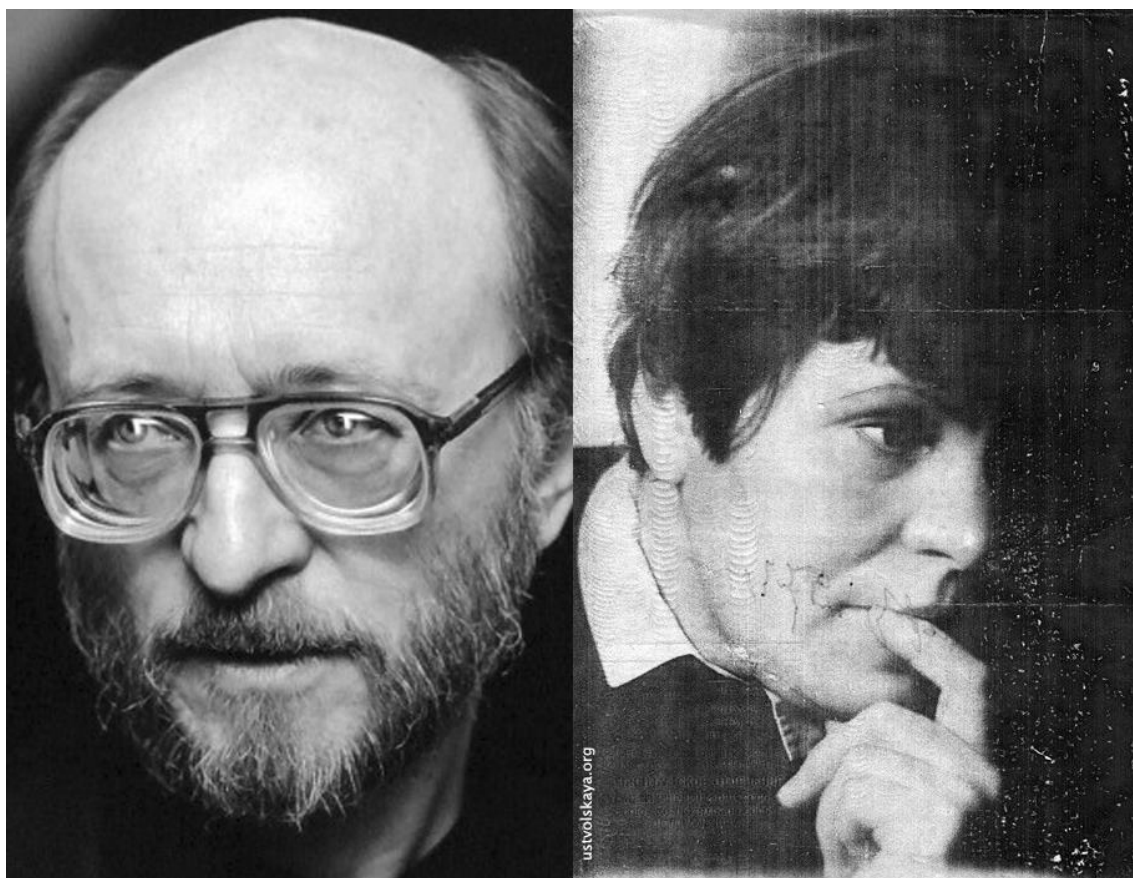
カルト音楽の夜

アレクセイ・リュビモフ

《生誕100周年記念/特別公演》

ガリーナ・ウストヴォリスカヤ大回顧

Alexei Lubimov plays Galina Ustvol'skaya



アヴァンギャルドの巨匠ピアニスト
アレクセイ・リュビモフが熱望し東京で実現
世界でたった一回だけの、超絶レア公演
全国のピアノ音楽ファンよ、集結せよ!!
ソ連が生んだ「カルト作曲家」の刺激的個展

2019. 10. 2(水) 19:00 開演 (18:30 開場) ヤマハ銀座コンサートサロン(ヤマハ銀座ビル 6階・94席)

全席指定 一般6000円 (MCSフレンズ会員4000円) 学生券1500円 (10枚限定・23歳以下・当日学生証提示)

ガリーナ・ウストヴォリスカヤのピアノ・ソロ作品のみを予定。詳細および最新の情報はMCSのウェブサイトへ(右のQRコードから)

【チケット申込み】 MCS 03-3473-2880 マイチケ: <https://myticketnavi.com/>

【主催】一般社団法人MCSヤング・アーティストズ 【共催】株式会社ヤマハミュージックジャパン

7.30(火)
AM10時
発売



ガリーナ・ウストヴォリスカヤ Galina Ustvol'skaya

(1919年6月17日生 — 2006年12月22日没)

ペトログラード（現サンクトペテルブルク）に生まれ、レニングラード音楽院で10年学んだ。1939年にドミトリ・ショスタコーヴィチの作曲科クラスに唯一の女性として入ることを認められた。1941年8月にクラスはタシケントに疎開。1943年にはチフヴィンの病院で働くこととなった。戦争中は作曲活動ができなかったが、1944-46年のあいだマクシミアン・シテインベルクのクラスで学び続けた。その後ふたたび1年間ショスタコーヴィチの下で学び、ショスタコーヴィチの助言に従って書き上げたピアノ協奏曲でディプロマを得て卒業。両者は1960年代前半まで、定期的にコンタクトを取り続けている。

ショスタコーヴィチはウストヴォリスカヤの作品を非常に高く評価し、本人に「ガリーナ・ウストヴォリスカヤの音楽が世界中で知られるようになることは間違いないと確信している。音楽を愛する理解者すべてから評価されるだろう」と語った。ショスタコーヴィチは自分の未完成作品を彼女に送り、彼女の意見に大いに耳を傾けた。弦楽四重奏曲第5番および《ミケランジェロの詩による組曲第9番》において、ウストヴォリスカヤのトリオ作品の終楽章、第2主題を引用している。ショスタコーヴィチは彼女に宛てて「あなたが私の影響を受けているのではなく、私があなたの影響を受けているのです」と書いている。ウストヴォリスカヤは人間としてのショスタコーヴィチに惹かれたが「乾燥して心がない」音楽にはついに理解できなかったと、1990年代になって語っている。ウストヴォリスカヤのこの率直な発言や、自分の教師の醜い面を告発したことは大きなスキャンダルを巻き起こし、彼女の作品はロシアでいまなお、ほとんど演奏されることがない。

アレクセイ・リュビモフ Alexei Lubimov – PIANO

アレクセイ・リュビモフは、世界的なピアニスト、チェンバロ奏者である。スビャトスラフ・リヒテル亡き後、ロシアの古典から現代音楽まで幅広く演奏することのできる最後の巨匠といっても過言ではない。モスクワ音楽院で伝説の名教師ゲンリフ・ネイガウスとレフ・ナウモフに師事。モーツァルトのピアノ・ソナタ全集やショパンのバラード全曲録音を行なった。現代音楽の演奏も積極的に行っており、シェーンベルクやシュトックハウゼン、ブーレーズ、リゲティなどのソ連初演を数多く行なっている。このため当時のソ連政府より警戒され、1970年代以降の活動は制限されることとなった。しかしその間も、ソ連でモスクワ・バロック・カルテットを結成し、当時ヨーロッパでブームを巻き起こしつつあった「歴史的な楽器による演奏」をモスクワや国内の聴衆にいち早く紹介している。

ソ連崩壊が近づくにつれ徐々に制限がなくなってゆくと、ウィーン楽友協会、ザルツブルク音楽祭への出演をはじめ、世界の主要なホールや音楽祭に再び出演するようになった。そして1988年にはモスクワでアヴァンギャルド音楽祭「オルテルナティーヴァ」を設立するなど、極めて広範な活動を繰り広げている。これまでにイスラエル・フィル、ロサンゼルス・フィル、ミュンヘン・フィル、サンクトペテルブルク・フィル、ベルリン・ドイツ響、BBC響など、世界を代表するオーケストラと数え切れない回数共演してきた。

共演してきた指揮者にはアシュケナージ、ネーメ・ヤルヴィ、ホグウッド、ブリュッヘン、ケント・ナガノなど世界で最も重要な名前の数々を含んでいる。ロンドンを代表する古楽オーケストラのひとつエイジ・オブ・エンライトゥメント管弦楽団などの古楽器アンサンブルとは歴史的ピアノを用いての共演をしているほか、室内楽奏者としてアンドレアス・シュタイアーやナターリア・ゲートマン、ペーター・シュライアー、ハインリヒ・シフ、クリスティアン・テツラフ、ギドン・クレーメル、イワン・モニゲッティ、ヴィーラント・クイケンらの世界的な演奏家のパートナーを長年勤めている。また昨年は、長年の際立った業績により、記念すべき第1回目となる「ピリオド楽器によるショパン国際コンクール」審査員の重責を担った。